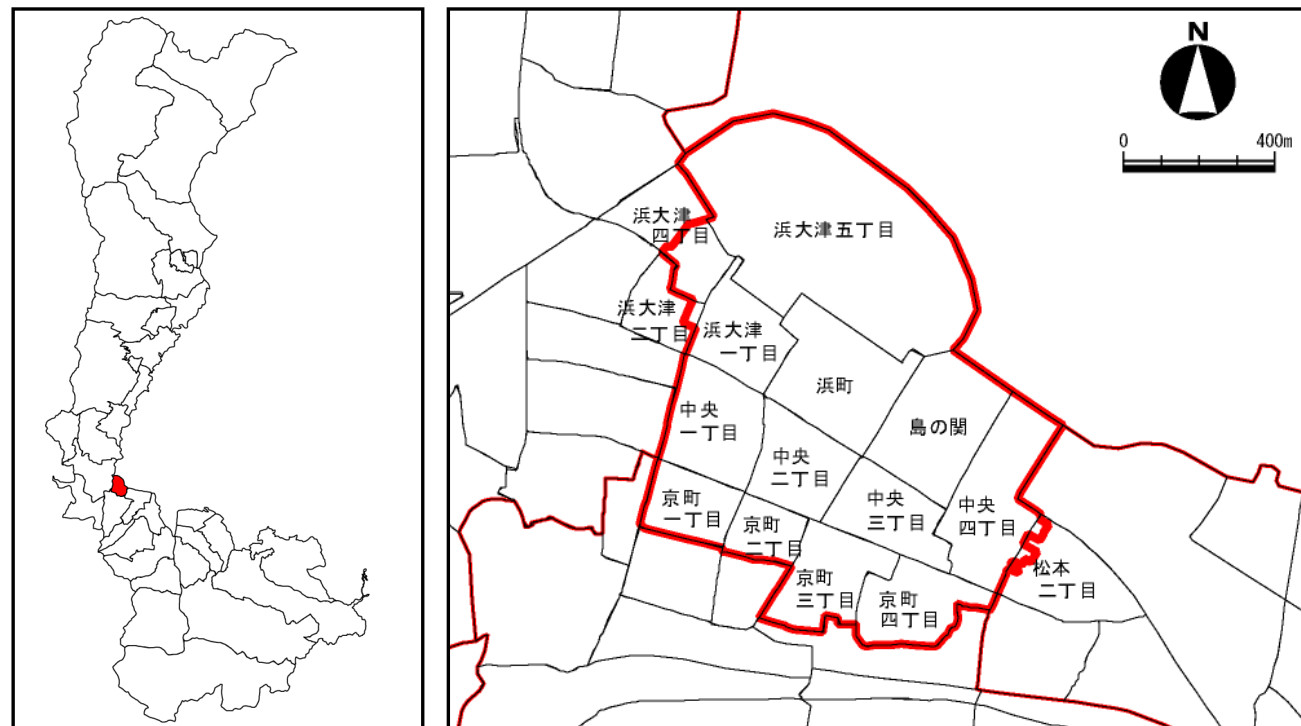


■ 学区の概況



<町丁名>

浜大津二丁目の一部、浜大津四丁目の一部、浜大津五丁目、中央一丁目、中央二丁目、中央三丁目、中央四丁目、京町一丁目、京町二丁目、京町三丁目、京町四丁目、島の関、浜町、浜大津一丁目、松本二丁目の一部

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

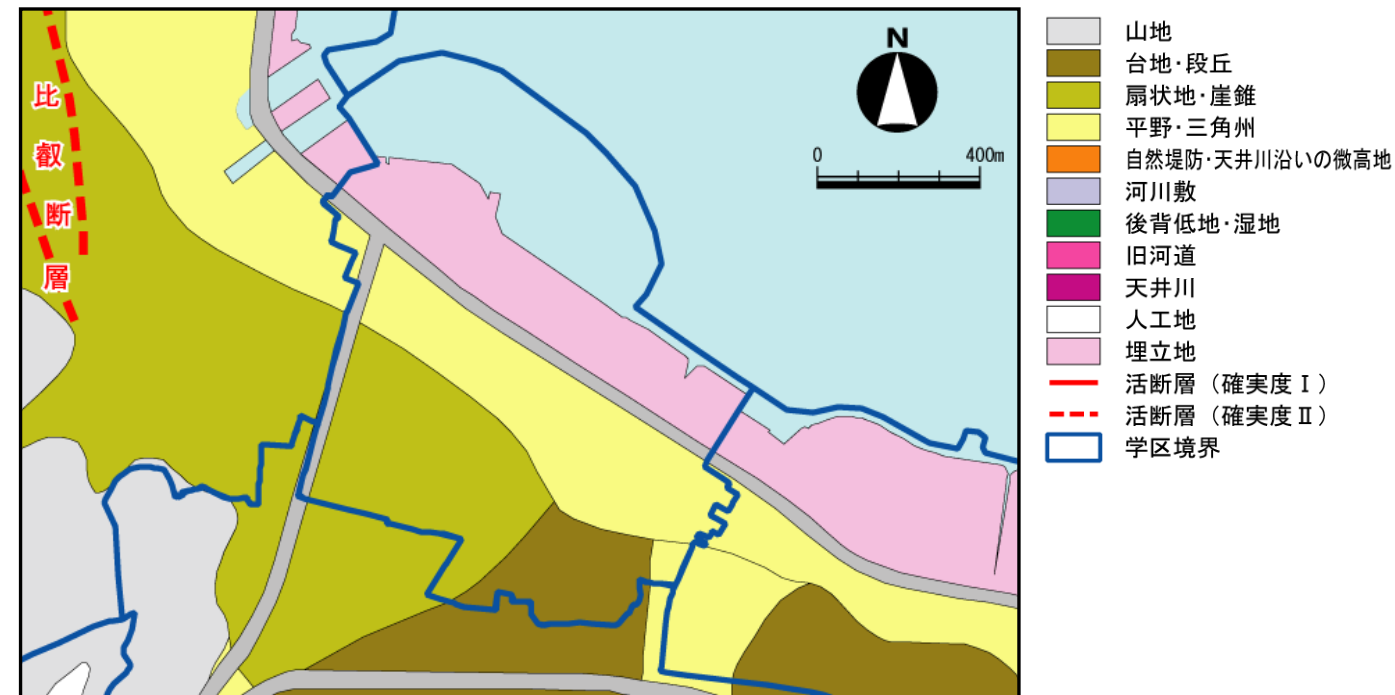
東海道の五十三番目の宿であり、京の都への玄関口として栄えてきた。古くから湖上交通が盛んであり、平安京の外港として重要な機能を果たしていた。船荷が集結する大津港を中心に他地域との交易も盛況で、経済面で先進的な発展を築いてきた。また、軍事面の要衝でもあり、16世紀末に大津城が築城された。

現在では、滋賀県庁など、県の行政の主要施設が存在する。

当時の繁栄ぶりを伝える文化財や、町並み、町屋が多く残っており、町衆の心意気は今に引き継がれて、湖国三大祭の一つである大津祭は地域を挙げての伝統ある祭となっている。

琵琶湖岸は浜大津港が琵琶湖観光の拠点として整備され多くの観光客が訪れている。また、水に親しめる公園としてなぎさ公園が整備され、一年を通じて様々な催しが行われるなど憩いの場となっている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 中央地域の地形は全域が低地からなる。南西部より京町付近までは扇状地または台地、大津草津線までは平野、大津草津線より湖岸側は埋立地に区分される。

<地質の特徴>

- この地域を含め、坂本地域より石山地域まで扇状地が連続的に分布し複合扇状地になっている。これは 40 万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。
- 平野・三角州の部分は砂礫が堆積した地質であり、地震によるゆれが大きくなると考えられる。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
浜大津一丁目	-	-	15.1	72.7
浜大津二丁目	109.7	80.4	56.9	70.3
浜大津四丁目	31.1	94.1	52.9	59.3
浜大津五丁目	-	-	12.5	0.0
中央一丁目	107.0	69.4	71.3	74.8
中央二丁目	106.0	64.2	71.2	75.3
中央三丁目	109.8	72.3	67.2	78.2
中央四丁目	94.0	82.6	70.8	73.0
京町一丁目	77.2	77.5	65.6	73.8
京町二丁目	106.2	80.3	65.1	74.6
京町三丁目	129.2	95.8	50.5	68.8
京町四丁目	120.1	95.4	56.2	70.7
島の関	88.8	88.2	64.0	50.0
浜町	118.3	94.1	69.4	79.8
松本二丁目	101.1	60.1	79.5	66.7
学区平均	99.5	83.6	66.8	71.5
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は99.5戸/haで市平均(全学区の平均)の59.3戸/haを大きく上回り、市内で最も高い。
- 不燃領域率の学区平均は83.6%で市平均の93.9%より低い。
- 木造率は、松本二丁目79.5%で最も高く、浜大津五丁目12.5%で最も低い。学区平均は66.8%で市平均72.7%を下回り、市内で5番目に低い。
- 旧耐震木造建物割合は、浜町79.8%で最も高く、浜大津五丁目0.0%で最も低い。学区平均は71.5%で市平均40.3%を大きく上回り、市内で3番目に高い。

■ 人口の状況

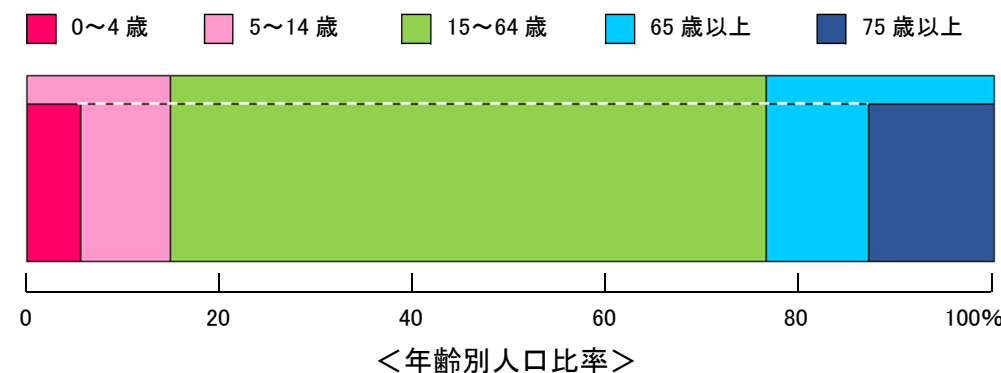
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	6,728	人		-	1
年齢別 (0~4歳)	372	人	学区人口に対する割合	5.5	1
年齢別 (5~14歳)	624	人	学区人口に対する割合	9.3	1
年齢別 (15~64歳)	4,140	人	学区人口に対する割合	61.5	1
年齢別 (65歳以上)	1,592	人	学区人口に対する割合	23.7	1
年齢別 (75歳以上)	874	人	学区人口に対する割合	13.0	1
世帯数	3,332	世帯		-	2
1世帯当たり人口	2.0	人/世帯		-	2
要介護認定者	330	人	学区人口に対する割合	4.9	3
身体障害者 (要配慮者)	72	人	学区人口に対する割合	1.1	4
知的障害者 (要配慮者)	8	人	学区人口に対する割合	0.1	4
外国人居住者	58	人	学区人口に対する割合	0.9	5

(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30現在)、4: 大津市データ (R4.3.31現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区全域が人口集中地区 (D I D地区) であるが、とくに京阪電鉄より南側の平野・扇状地部に人口が集中している。
- 高齢者 (65歳以上) は1592人、乳幼児 (0~4歳) は372人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ23.7%、5.5%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は330人 (4.9%)、身体障害者 (要配慮者) は72人 (1.1%)、知的障害者 (要配慮者) は8人 (0.1%) である。
- 外国人居住者は58人 (0.9%) である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	0 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	0 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	0 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	0 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） ^(注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	43,189 m ²	6
(0.5m~1.0m)	98,900 m ²	6
(1.0m~2.0m)	80,663 m ²	6
(2.0m~)	16,631 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	0 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1: 滋賀県砂防課 (R3.7.16) 2: 滋賀県砂防課 (R3.2)
 3: 滋賀県森林保全課 (R3.11) 4: 滋賀県砂防課 (H24.12) 5: 農林振興課、砂防課 (H24.12)
 6: 淀川水系 洪水浸水想定区域図 (想定最大規模) (瀬田川上流: H31.3.19、瀬田川下流: H29.3.21、琵琶湖: H31.3.19、草津川: R1.10.1、大戸川: H31.3.19)
 7: 琵琶湖河川事務所 (R2.6) 8: 大津市産業観光部 (R3.12)

<防災上の特性>

- 中央学区のほとんどが湖岸沿いの埋立地および平野・台地・段丘という地形地質環境であるため、市内の中でも自然災害危険地に指定されているエリアが少ない。
- 湖岸沿いの市街地部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域が広がっており、琵琶湖からの浸水に注意が必要である。
- 地震時には、特に湖岸沿いの埋立地部で、液状化が発生する可能性がある。
- 広域避難場所に指定されている大津港や、避難所に指定されている大津湖岸なぎさ公園おまつり広場、市民会館などは埋立地に区分されている地域に相当するため、液状化対策も視野に入れる必要がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急 避難場所	中央小学校グラウンド	○	○	○		島の関 1-60
	大津幼稚園グラウンド	○	○	○		島の関 1-50
	大津湖岸なぎさ公園おまつり広場	○		○		島の関 13 地先
	大津港	○		○	○	浜大津五丁目 5
指定緊急 避難場所 兼 指定避難所	中央市民センター	○	○	○		中央二丁目 2-5
	中央小学校体育館	○	○	○		島の関 1-60
	大津幼稚園	○	○	○		島の関 1-50
	市民会館	○		○		島の関 14-1
指定避難所	(福) 旧大津公会堂	—				浜大津一丁目 4-1

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※ (福) 印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
中央市民センター	中央二丁目 2-5	526-4835

<警察 110>

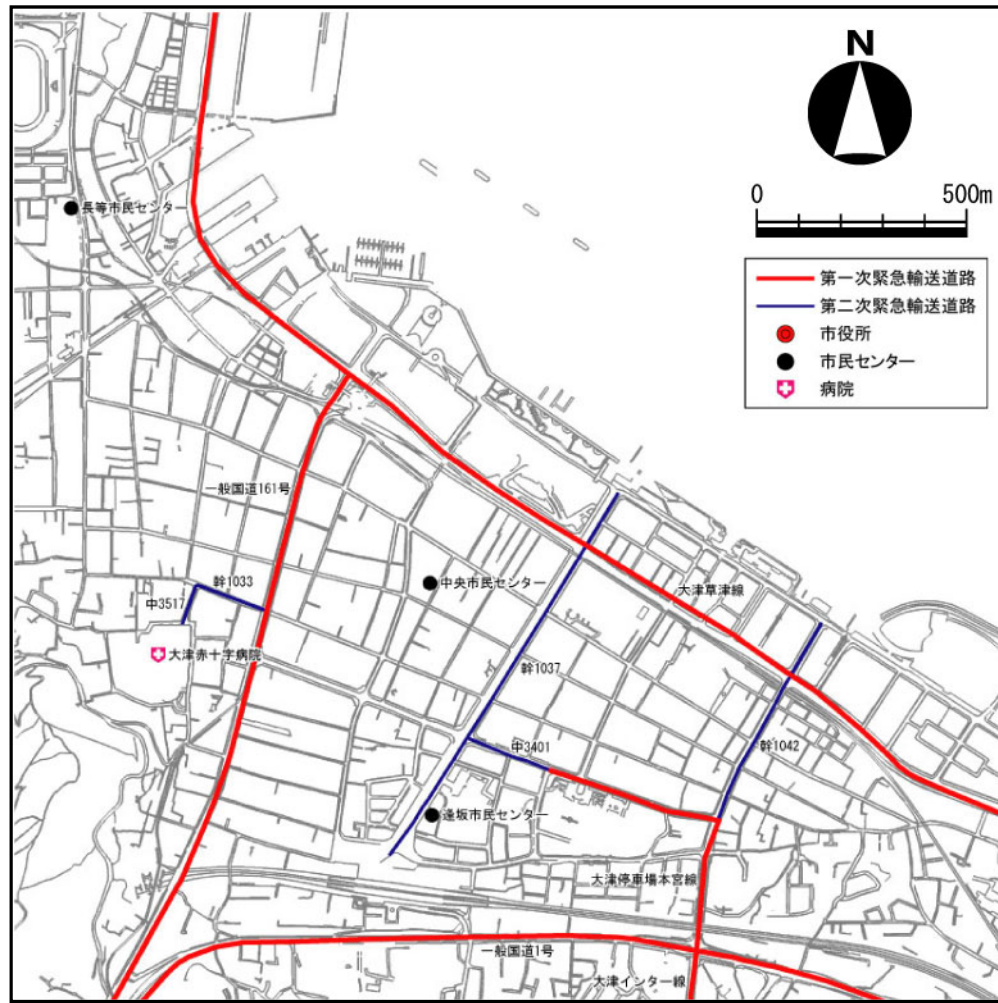
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
浜大津交番	浜大津四丁目 1-39	522-2900

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
水上出張所	浜大津五丁目 1	522-2203
中央分団	島の関 1-10	523-2723



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数		
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	1,912	4,749	413	478	652	6	14	10	74	169	106	4	8	5
ケース2	1,912	4,749	740	405	943	17	39	24	47	107	69	2	5	3
ケース3	1,912	4,749	514	455	742	10	21	15	59	135	85	3	7	4

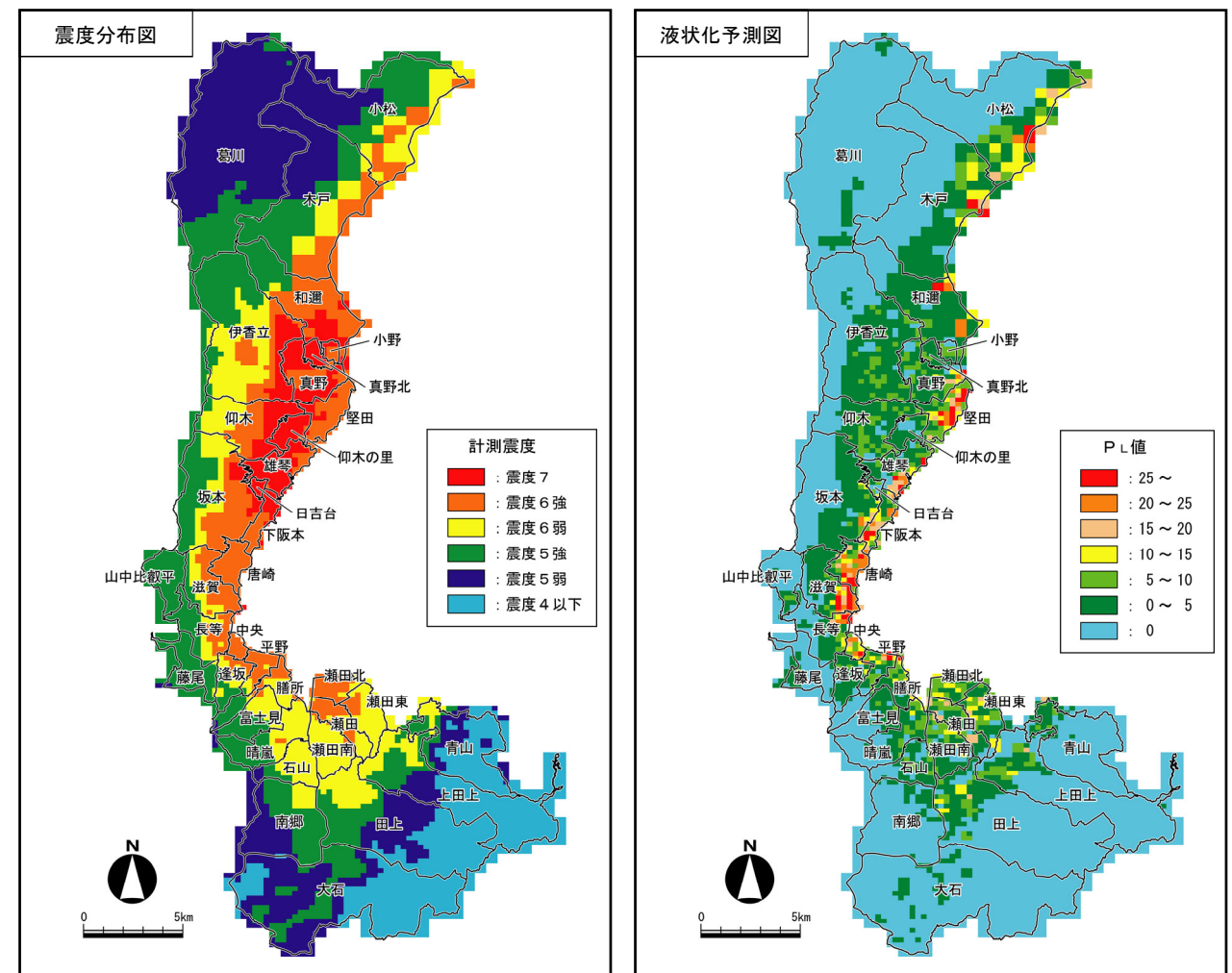
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	1	1	644
ケース2	1	1	2	814
ケース3	0	1	1	699

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

